

10月26日は何の日かご存知でしょうか。20世紀に数億人の命を奪った天然痘(正確には痘瘡といいます)を人類が制圧した記念日です。予防接種が極めて有効な痘瘡に対し予防接種を徹底、第2段階として感染者と予防接種を受けていない人を隔離することで地球上から撲滅しました。現在では様々な感染症に対し予防接種が行われ大流行を抑圧、さらにこの第2段階が今日の日本ではスタンダードプレコーション(標準予防手順)として広く行われています。ひとからひとへの感染症の伝播は感染症を持っているひとの分泌物、排泄物、粘膜・傷口以外は感染源となりませんが、医療現場では感染症を疑わせるひと以外に接するときでも手洗い消毒を励行、分泌物、排泄物に触らない手段を講じます。誰からの採血でも手袋を装着、排泄物は適切な廃棄処分をします。SARSや新型インフルエンザの大

流行が危惧されたときに日本の医療機関はこの標準予防を徹底することを学びました。すべてのひとからの検体・分泌物に感染のリスクがあると考えて接する基本手技が様々な感染症の蔓延を予防しています。

皆さんが食事の前に手を洗うことはその大切な一環です。最近ではファミリーレストランなどでも速乾性刷り込みタイプのアルコール消毒薬が用意されています。15秒程度手首あたりまで乾くまで刷り込むことが石鹸で手を洗うより殺菌作用を示します。予防接種の開発は大変重要ですが標準予防が国民に浸透することが感染症の拡大を阻止します。また発熱のある方が医療機関に行く際は前もって医療機関に連絡をして隔離された状態で診察を受けましょう。咳をしているときのマスク着用も大切な感染源の遮断です。食前の手洗い、感染の危険のあるものの隔離、感染原因の適切な廃棄、感

染症流行時のマスク装着励行が広く実行されている日本でエボラ出血熱のかたがお見えになっても流行するはずがありません。ましてやエボラウイルスは空気感染をしません。因みに今回のエボラウイルスの大流行は西アフリカでは初めてでもアフリカ全体では25回目の流行となります。初期対応を怠りここまで拡散するとアフリカではその衛生状態、医療資源の不足からエボラウイルスの蔓延は避けられません。今回はそれに対する対策を考えたいと思います。



にしおか内科
クリニックRA 院長
西岡 雄一

専門分野は関節リウマチ、痛風、気管支喘息、漢方薬治療。地元のファミリードクターとして、一般内科も診察。ラジオドクターとしても活躍中。